

2018.3.18 Sun.

鹿おどりパフォーマンス
親子向けワークショップ
ミニシンポジウム
企画展



日本の伝統文化のなかに 生きる動物たち

能や歌舞伎、郷土芸能などには、さまざまな動物が登場します。そこで使われる小道具にもイヌワシの羽など動物の体の一部が使われています。日本の伝統文化と日本産動物が深く関わっていること、生物多様性を守ることとは豊かな文化を守ることとを学ぶ企画です。



主催：多摩動物公園 × 日本自然保護協会 × 伝統芸能の道具ラボ

後援：国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）
環境省（申請中）

日本の伝統文化のなかに生きる動物たち

2018.3.18 Sun.

シカの角をつけて鮮やかな衣装でおどる「鹿おどり」のパフォーマンスやオリジナルの鹿おどりの頭をつくるワークショップ、また能楽師・東川光夫氏をお呼びしてのミニシンポジウムなど、子どもから大人まで楽しめる企画がいっぱいです。

ミニシンポジウム 日本の伝統文化のなかに生きる動物たち

日時：3月18日 13:30～15:00

場所：多摩動物公園 動物ホール

対象：小学生以上 100名

事前
募集

■メールまたはハガキ申込。締切 3月14日
先着順。入園料・参加費無料。
詳しくはホームページ（東京ズーネット）
<https://goo.gl/QB1aXg>
または電話でお問い合わせください。



650年の時を超えて舞いつがれている「能」の道具のひとつ「羽うちわ」は、今では絶滅の恐れのあるイヌワシやクマタカなど、ワシ・タカの尾羽でつくられています。その羽うちわを持って登場するのは、魔法のように風を起こす「天狗」なのです。

伝統芸能の中から日本人の動物へのあこがれや祈りの気持ちをひもとき、何世代にもわたって自然とその恵みを受けつぐこと、文化を受けつぐことのつながりについて考えます。

●「飼育係から見るワシ・タカの魅力」

中島亜美（多摩動物公園 飼育展示課 南園飼育展示係）

●「天狗の羽うちわに見るワシ・タカのちから」

東川光夫氏（宝生流・能楽師）

●パネルディスカッション「伝統芸能と日本人の動物観」

東川光夫氏（宝生流・能楽師）

小岩秀太郎氏（全日本郷土芸能協会 事務局次長、
東京鹿踊 代表）

田村民子氏（伝統芸能の道具ラボ 主宰）

永井清氏（多摩動物公園 園長）

鶴田由美子氏（日本自然保護協会 事務局次長）



ワークショップ シカを学んで、鹿おどり

日時：3月18日 10:30～12:00

場所：多摩動物公園 動物ホール

対象：5歳以上の子どもと家族 20組

事前
募集

■メールまたはハガキ申込。締切 3月8日。詳しくはホームページ <https://goo.gl/QB1aXg>
多数の場合は抽選。入園料・参加費無料。（東京ズーネット）、
または電話でお問い合わせください。

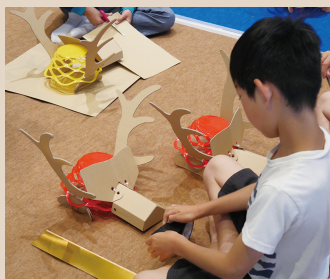
シカの角や動物の毛に触れながら、オリジナルの鹿おどりの頭（かしら）をつくります。踊りの体験をしながら、シカや人のくらしと命のつながりについて楽しく学びます。

●講師

小岩秀太郎氏

（全日本郷土芸能協会 事務局次長、東京鹿踊 代表）

鹿踊り手のみなさん ほか



鹿おどりパフォーマンス

日時：3月18日 10:30- 13:00-

場所：多摩動物公園ウォッチングセンター前

鹿踊り（ししおどり）グループによる郷土芸能「鹿踊り」を上演します。岩手県に伝わる「鹿踊り」は、自然の恵みへの感謝や、自然や命を敬う気持ちを込めて踊りつがれてきた郷土芸能で、シカの角やウマの毛をつけた頭（かしら）と鮮やかな衣装をまとうて踊ります。今回は、岩手県一関市の「行山流舞川鹿子躍（ぎょうざんりゅうまい かわししおどり）」の踊りを伝える「東京鹿踊（とうきょうろくおどり）」による演舞です。



東京都多摩動物公園

【開園時間】 9時30分～17時（入園は16時まで）

【休園日】 毎週水曜日（祝日や都民の日にあたる場合は翌日）

【入園料】 一般600円 65歳以上300円 中学生200円

＊小学生以下および都内在住、在学の中学生は無料

【お問合せ】 東京都日野市程久保7-1-1 TEL:042-591-1611（代）

【URL】 <http://www.tokyo-zoo.net/>